

休校児童の事故注意

新型コロナウイルスの感染拡大で全国の学校で臨時休校が続く中、子どもたちが外出時に事故に遭うケースが相次いでいる。突然の休校で学校側が安全指導などの時間を十分確保できなかった事情もある。文部科学省は登校の機会などに安全教育を行うよう全国の学校に求めた。



公園を見回り、子どもたちの安全を確認する真岡小の教員（4月28日、栃木県真岡市で）

安全指導 十分できず

留守番中も危険潜む

子どもの外出時や在宅時の注意点

車道と歩道が分離していない道は要注意。往来の多い場合、小学生は1人で歩かない
蛇行運転など危険な動きをする車やバイクは立ち止まってやり過ごす



川のそばの草むらは滑りやすいので、立ち入らない

窓やベランダなどの施錠を徹底する

テレビやラジオをつけて家に大人がいるよう装う

電話や宅配物を受け取る時のルールを決めておく（基本的に出ない、ドアを開けないなど）

洗濯機や風呂場などの危険な点を親子で確認する



自転車で外出

「カーブを曲がりきれなかったのかな……」

山形県上山市で4月14日、自転車遊びに出かけた川に転落して亡くなった小学3年の女兒（8）の母親は、力なく話した。
通学先の小学校は休校中で、女兒はこの日午前、家族に「遊びに行く」と言い、1

外出時

在宅時

NPO法人「体験型安全教育支援機構」の資料から

人で外出。帰ってこないのを心配して付近を捜していた祖父が川の中で倒れているのを見つけ、搬送先の病院で死亡が確認された。自転車もそばにあり、県警は女兒が運転を誤って道路から川に落ちたとみている。
上山市教育委員会は翌15日、臨時校長会を開催。古山茂満教育長は「急に休み

ってほしい」と注意を促す。

家庭でも教えて

栃木県真岡市では公立小中学校の教職員が校区内のパトロールを続けている。市立真岡小学校では1日2回、1時間ほどかけて巡回。高島務教諭（50）は「子どもたちが事故や犯罪に巻き込まれないよう、目を配りたい」と話す。

浜松市では、北区にある三ヶ日町農協の有線放送を使って地元の細江署が休校中の児童や生徒に「留守番中の注意点」などを伝えている。

に入り、事故に気をつけよう」と子どもたちに話す機会がなかったと唇をかんだ。市教委は各小中学校の校区内を調査し、危険箇所を明記した地図を各校のホームページで公表する予定だ。

休校中の事故は全国で起きている。3月16日には名古屋市内で小学4年の男児が、4月9日には川崎市内在小学3年の男児が、同日には神戸市内で小学3年の女兒がそれぞれ自転車や徒歩で移動中、車にはねられた。3人とも重体となったが、警察によると、川崎市の子の男児と神戸市の女兒は

その後回復に向かっているという。

警察庁によると、3月に交通事故で死亡した14歳以下の子どもの数は6人。前年同期より4人増えた。

自宅にも危険が潜んでいる。愛知県内では3月23日、無施錠の窓から住宅に侵入した男が留守番中の小学生の女兒に気付き、逃げたという。別の住宅では小学生の男児が1人で在宅中、2人組の男が侵入し、現金などを盗んで逃走した。いずれもけがはなかったが、県警は「万が一に備え、屋外に逃げる方法を家庭で話し合

文部科学省は4月23日、

休校中の登校時などに、交通事故や犯罪被害を防ぐための安全教育を行うよう全国の小中学校、特別支援学校に求めた。

通学路の安全などに詳しいNPO法人「体験型安全教育支援機構」（東京）の清永奈穂理事長は「外出自粛で人通りが減り、車は速度を出しがちになっている。小学校では通常、1学期に交通安全教室などを開くが、休校でその機会を作れておらず、家庭で通学ルールを教えることが重要だ」と指摘する。

5/4 ヨミウリ